

カリキュラム

機構施設名：大分職業能力開発促進センター
 実施機関名：一般社団法人香川県中小企業診断士協会

| | |
|-------------|---------|
| (A) バックオフィス | 生成AIの活用 |
| 新技術活用 | |

| | |
|---------|---|
| コースのねらい | 生成AIの概要とビジネスの現場における、具体的な活用シーン等について理解し、AIと協働することによる業務の質とスピードを高める技術を得る。 |
|---------|---|

| | 「基本項目」 | 「主な内容」 | 訓練時間 (H) |
|------|-------------------|---|---------------------------|
| 講義内容 | 1 生成AIの概要 | (1) 生成AIの「超概要」【ワークあり】 生成AIと上手に付き合うために、生成AIの仕組みを理解する必要があることを知る。 ✓歴史に学ぶ「勝者のスタンス」：産業革命期に新技術を拒絶せず適応した先人に倣い、生成AIを恐れず「部下」として活用するマインドをセットする。 ✓特性は「空気が読めない超インテリ」：「会社の文化や上司の顔色(文脈)を察する柔軟性はないが、知的能力は高い」特性を理解し、的確に指示を出す必要性を実感する。 (2) 生成AIの「仕組み」【ワークあり】 言葉の定義や仕組みの基礎を理解し、活用する際のコツを把握する。 ✓IT・AI・生成AIの明確な位置づけ：「IT=処理」「AI=判断」の自動化に対し、「生成AI=知的創造」の自動化であると定義し、業務への適用イメージを掴む。 ✓「確率論」で動く技術の本質：確率で言葉を繋ぐLLM(大規模言語モデル)の仕組みを理解し、なぜ嘘をつくのかわ、どう扱えば精度が高まるのか、その原理原則を腹落ちさせる。 ✓主要モデルの比較と使い分け：ChatGPT、Gemini、Copilot、Claude、Perplexityなど、直近での主要モデルを比較し、自社業務に最適なモデルを選定できる目を養う。 (3) 生成AIの「落とし穴」【ワークあり】 活用する際のリスクについて主要な観点を理解する。 ✓情報漏洩・セキュリティ：入力データが学習されるリスクとその回避策など、企業導入において避けて通れないセキュリティの必須知識を得る。 ✓権利侵害と倫理的課題の回避：著作権侵害のリスクや、バイアス・フェイク情報への対策、ハルシネーションを見抜くリテラシーを身につける。 | 0.5 0.5 0.5 |
| | 2 生成AIの活用事例と今後の展望 | (1) 生成AIの「活用事例」【ワークあり】 汎用的な活用事例の実践を中心に、業務における生成AIの活用イメージを深める。 ✓業務活用パターンの実践：文章要約、メール作成、コード生成、OCR(文字認識)、画像生成、音声認識活用など、操作を通じて体感する。 ✓プロンプトエンジニアリング：「役割の付与」「制約条件の設定」「出力形式の指定」など、AIから良質な回答を引き出すための指示出しの型を習得する。 ✓自社業務への適用：受講者自身の職場における「生成AIを活用する業務」を洗い出し、具体的な改善案を策定する。 (2) 生成AIを「活用する組織づくり」【ワークあり】 生成AIを組織に定着させ、最大限に活用するためのポイントを理解する。 ✓「責任・評価区分」と「業務プロセス」の再設計：自律性を高めるルール作りや、生成AIの活用効果を最大限にする業務プロセス再設計の考え方を身に付ける。 ✓心理的安全性と「学習する組織」へ：「AI利用=サボリ」と見なされる心理的障壁を取り除き、技術進歩に取り残されずに共有・習得し続ける組織のあり方を理解する。 (3) 生成AIとあなたの「今後の展望」【ワークあり】 生成AIの技術進歩を踏まえ、企業人としての今後の在り方を見つめなおす。 ✓企業経営と社会構造の変化予測：生成AIの普及がもたらす中長期的な変化を予測し、自社のビジネスモデルや受講者のキャリアに与える影響を考察する。 | 3.0 1.0 0.5 |

全体を通じて、時間配分は変動する場合があります。1時間に10分程度の休憩を行います。

【ワーク】時間には、検討・作業の時間だけでなく、解説・全体共有の時間を含んでいます。

| | |
|-----------|---------|
| 合計時間 | 6.0 |
| (うち講義) | 1.5~2.0 |
| (うち【ワーク】) | 4.0~4.5 |

カリキュラム作成のポイント

本カリキュラムの設計において最も重視したのは、「受講者が実際の仕事で活かせる学びを得ること」です。生成AIの活用度が低い多くの方が抱く「難しそう」「自社には関係ない」という心理的なハードルを取り払い、翌日から自信を持って「活用しよう!」とっていただける、以下の工夫を凝らしました。

【設計上の工夫】

- ①変化に揺らがない「本質的なAIリテラシー」の確立：技術進歩が著しい分野だからこそ、すぐに陳腐化する操作テクニックの暗記ではなく、「AIは**どう**思考し、**どう**扱えば**輝く**のか」という基礎原理の理解に重きを置いています。どのような最新モデルが登場しても対応できる本質的なAIリテラシーをお伝えします。
- ②「知っている」から「使える」へ変える実践ワーク重視の構成：「活用度が低い」という方こそ、大きな伸び代を持っています。講義によるインプットは必要最小限に留め、実際に手を動かすワークショップに時間を割くことで、「AIが自分の指示で動いた!」という感動と成功体験を創出。理屈を超えた「効果の実感」こそが、継続利用への動機付けとなります。
- ③技術論に留まらない「組織導入へのアプローチ」を網羅：ツールの使い方だけでは、企業活用は進みません。導入の壁となる心理的障壁やルール作りなど、見落とされがちな「組織への定着」という観点からの講義を盛り込みました。技術面と運用面の両輪を理解することで、単なる利用者ではなく、社内の推進役となれる人材を育成します。

【講師の想い】

- ①「自分事」として落とし込み、現場の実践・改善へ繋げる：一般的な事例紹介で終わらせず、受講者一人ひとりが「自分の今の業務ならどう使うか?」を考える時間を大切にします。個々の置かれている状況と学びを結びつけることで、翌日から「ここをこう変えてみよう」という具体的な改善のアイデアが湧き出る状態を目指します。
- ②「仕事がなくなる」不安を、「仕事の可能性を拓く」ワクワクへ：新しい技術への不安を払拭し、「生成AIという頼もしい部下と共に新たな仕事のスタイルを共創する」というポジティブなマインドセットを持ち帰っていただきます。翌日から前向きに「やってみよう!」と一歩を踏み出す瞬間を作ることが、私の使命であると考えています。

中小企業診断士としてのコンサルティング経験と、現場での実績を融合させ、理論と実践のバランスが取れた「腹落ちする」指導をお約束します。受講者の皆様にとって、本研修が単なる学習の場ではなく、**キャリアと組織の未来を拓くターニングポイント**となるよう、熱意を持って登壇いたします。また、当協会公認の「認定講師★」として講師経験も豊富です。当協会自慢の指導力にどうぞご期待くださいませ。

| 訓練に使用する機器等 | |
|--|--|
| ●機器・ソフトウェア(受講者用) ・筆記用具(受講者にて持参) ・ノートパソコン(受講者にて持参) | ●機器・ソフトウェア(講師用・その他) ・スライド投影用PC(講師にて持参) |
| ●使用するテキスト ・自作テキスト | ●その他 |

| 利用事業主に用意を求める機器等 | 備考 |
|---|---|
| ・ホワイトボード、マーカー(黒、赤)、ホワイトボード消し ・プロジェクター、スクリーン、PC/プロジェクターまでの延長ケーブル ・必要に応じてマイク(講師、受講者各1本) | ・アカウント等が必要な場合は事前に利用事業主様にご連絡予定(ワークで実際に生成AIを活用するため) |